できることは今やりましょう！

災害への備え

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、東北地方、関東地方は、水道施設などのライフラインに甚大な被害を受けました。

㈱日本水道協会の要請により、松山市は給水車を派遣し、広範囲にわたって断水が発生した仙台市で給水活動を行いました。

松山市においても、「南海・東南海地震」などマグニチュード7.1～8.4という大規模地震が、近い将来高い確率で発生するのではと懸念されています。

現在、水道施設を地震などの災害に強いものとするために「耐震化」を進めていますが、大規模な災害のときには、水道が使えなくなることも予想されます。日ごろから災害への備えは大変重要です。

災害時の飲料水はどこで手に入れる？！

避難所での飲料水配布

避難所に給水車で飲料水を届けます。お持ちいただいた容器に水道水を入れ、配布します。容器に入れた水道水を飲むことができる期間は、保存の状態によって大きく異なります。水道水は、菌を繁殖させないため、塩素が入っていますが、その塩素がなくなると菌が繁殖しやすくなります。保存する場合は、清潔な容器に口までいっぱいに水を入れ、フタをきっちりと閉め、日が当たらない涼しいところで保存するようにしてください。

緊急用貯水槽

松山市では、「緊急用貯水槽」を、市中心部の4カ所の小中学校に設置しています。災害時の飲料水のほか、火災の発生時にも活用できるこの水槽は、近くの水道管から常に新鮮な水が出入りして水質を保っています。この4カ所の貯水槽で、約4万人が3日間生活できる飲料水を確保しています。

設置場所	規模
新玉小学校	50㌧
勝山中学校	100㌧
道後中学校	100㌧
雄郡小学校	100㌧

緊急用貯水槽設置場所と規模

緊急用貯水槽操作訓練の写真

家庭でできる自然災害への備えについて紹介します。

非常持ち出し袋

食料関係
※家族の人数に応じて、3日分程度用意しておきましょう。

- 飲料水
- 食料（カンパン、缶詰、レトルト食品など）
- ナイフ　•缶切り
- ラップ　•紙皿
- 割りばし

日用品関係
※できるだけ軽量でコンパクトなものを選びましょう。

- 携帯ラジオ　•懐中電灯
- 予備の乾電池
- 使い捨てカイロ　•マスク
- ティッシュ・ウェットティッシュ
- 軍手　•マッチやライター
- 救急セット

9月1日は「防災の日」
いったん袋に入れてしまうと、賞味期限の確認は忘れがちになります。
防災の日（9月1日）など、1年に1回、持ち出し袋の中を確認しましょう。

家庭での水対策

① 飲料水を準備しておきましょう。
1人に1日3リットルの飲み水が必要です。もしものために、3日分の飲み水を準備しておきましょう。

災害用備蓄飲料水

賞味期限が長いものを用意しておけば安心です。常温保存期間が5年間から10年間もあるというボトル水もあります。紫外線を通さないアルミボトルにしたり、酸化を防ぐためボトルの上部に残る空気を抜いて窒素を入れたりして、長期保存ができるようにしています。

② お風呂の残り湯は、すぐに流さず、ためておきましょう。
洗顔や洗濯、水洗トイレの水として利用できます。また、火事の場合は、消火用水として利用することもできます。

③ 容器を準備しておきましょう。
給水車で避難所に運ばれる飲料水を入れるため、清潔な容器を準備しておきましょう。

非常用飲料水袋

大容量の容器だと持ち運びが不便な場合があります。ちょうどよい大きさの容器にしましょう。折りたたむことができるタイプのものであれば、普段はコンパクトに収納でき、場所をとりません。手で提げたり、リュックのように背負ったりできる2WAYタイプもあります。背負うタイプの容器は、両手が使えるので安全です。

④ 断水になっても水道の蛇口はしっかり閉めておきましょう。
断水中であっても、水道の蛇口を開けっ放しにしておくと、再び給水を開始したとき、水が出しっ放しになり、家の中が水浸しになってしまいます。

水道の防災拠点 水道管路管理センターが完成しました。

地震などの災害が発生した場合は、水道施設の被害やお客さまの被災状況をいち早くキャッチしたうえで、状況に応じた適切な対応が求められます。「水道管路管理センター」は、被害状況を集約し、迅速な指揮命令を発信する“水道版防災センター”の機能を持っています。